

青森県立弘前工業高等学校

住 所 弘前市大字馬屋町六の二

生徒数 男子一一一六名 女子一二七名

部員数 男子十九名

顧問 小沢 貞男・渡辺 兼敏 コーチ 成田 一喜

はじめに、本校について紹介します。青森県立弘前工業高等学校は、明治四十三年、青森県内初の工業学校として弘前市に設置されました。平成二年には、創立八十周年を迎え、盛大に記念式典がとり行われています。これまでの卒業生は、約一万九千人に及び、工業界はもちろんのこと、各界で活躍しています。

八十余年の間には、変動する社会環境と度重なる教育改革、更には工業技術の革新などにより、本校も幾度かの変遷を余儀なくされました。しかし、創立以来、教職員の弛みない精励と生徒の強い向学心、更に、充実した施設、設備により、最も特色ある校風を樹立し、名実ともに全国有数の工業高校として工業界の進歩発展に貢献してきました。これらの実績は、卒業した先輩方の築き上げた伝統が生んだ力そのものですが、この輝かしい伝統を確かなものとして、更に発展、飛躍させるべく、現在も、教職員、生徒一丸となって努力しているところであります。

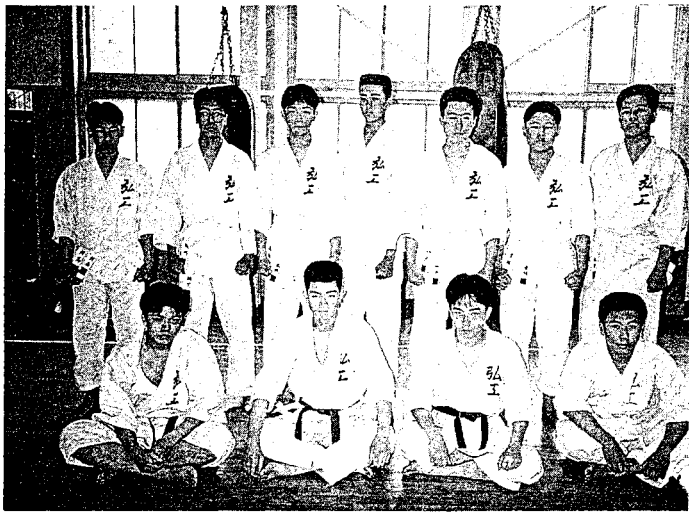
校舎は、日本一の桜で有名な弘前公園の一面にあります。弘前公園はまた、全域が弘前城跡であり、築城から三百八十余年を経た現在も、天守、櫓、城門、水濠など築城形態の全貌を残す城跡として今日まで保存されているのは全国でも類例が少なく、城跡

全体が国の史跡に指定されています。文字通り、歴史と伝統のある場所に設置されています。更に付近には、博物館、図書館などの文化施設も多く、生徒たちはこれらの恵まれた環境のなかでのびのびと高校生活を送っています。

さて、そのなかにあつて本校空手部は、本校教育目標に加えて武道をもって精神の涵養と人格の向上を図ることを目的に、昭和四十五年に創部されました。今年で二十二年目を迎えます。創部当時の部員数は約二十人で、その後部員数は十五人から三十人の間で推移し、現在は十九人の部員が練習に励んでいます。高体連には昭和四十七年に加盟し、第一回の大会から連続出場しています。大会での成績は、これまであまり華々しいものではありませんが、高校総体団体組手三位入賞の経験があります。

今回のこの空手部紹介では、創部当時のできごとを中心に紹介します。創部当時の空手部は空手そのものがあまり認められていない状況でありましたので、種々制約を受け、特に練習場所の確保には苦労しました。当時の状況を顧みますと、本校第三体育館（広さは普通体育館の約三分の一―現在は取壊して無い）が練習場に割り当てられたのですが、ここでは既に柔道部、剣道部、ボクシング部の三部が練習をしておりました。柔道部は畳敷が必須の条件ですので一面を独占しますし、ボクシング部もリング設置のため一面を独占します。新参者の空手部はそこで剣道部にお願しいし、一日交替で残りの場所を使用することになったのですが週のうち半分は体育館以外での練習を余儀なくされたのです。その練習場所は、廊下や屋上が主でしたが、床がコンクリートのため

足を傷める者も多く、特に廊下は狭いため組手などの練習が出来ませんでした。また、体育館での練習でも、狭いうえに他部と一緒にであるため、号令が聞こえなかったり、精神を集中させる型の練習ができないこともしばしばでした。このように練習場の確保で苦労しましたが、今顧みると、当時一般にまだあまり認められていない空手部について、廊下や屋上での練習を許可して下さり、また、交替でも体育館を使えるように努力して下さった理解のある顧問の先生方に恵まれたことを感謝しております。もちろん現在は、専用の練習場で練習をしております。



ということ、定められた時間内で内容を充実させるという方向

当時の練習内容については、とにかく練習量が重視され、連日長時間にわたり厳しい練習をしていたものです。特に、春秋の大会前には、合宿練習があり、早朝から深夜までの練習は部員をふるえあがらせました。しかし、反面部員同志では辛い練習を共に耐えたという意識から、より強い結び付きができたものでした。現在は、当時の練習精神を引き継ぎながら、量より質

に変化しています。

また、当時は、すぐ近くに東奥義塾高校があり、練習試合を度々行うなど交流が盛んでしたが、東奥義塾高校が郊外に移転した現在は、何か寂しい思いがします。

当時から部員指導の中心となっているのは、本校卒業生であり、卒業生の親睦と部員の指導の充実ということで、昭和五十一年にOB会が結成されました。部員指導はもちろんのこと、旗、垂れ幕を贈るなどして部員の気質の高揚を図っています。

これまで、創部当時のできごとを中心に紹介してきましたが、本校空手部は、創部以来これまで一貫して、主将を中心としたまとまりのあるチームを誇ってきました。現在も、外崎主将を中心としながら、非常にまとまりのあるチームになっています。これからも、今までの伝統を守りながら、更に飛躍していきたいと考えています。

最後になりますが、本校空手部の部訓を紹介します。

- 一、拳の道を歩み
苦難を本分とする
- 二、拳の道を歩み
人をつくるを本分とする
- 三、拳の道を歩み
誠を尽くすを本分とする